

海岸林の混交林化に関する研究

金子 智紀

秋田県農林水産技術センター森林技術センター

このたびは、榮譽ある賞を頂きまして誠にありがとうございます。これもひとえに学会長であります江崎次夫先生をはじめ、会の運営にご尽力されている役員の方々、そして学会員の皆様方からのご指導・ご協力の賜であると感謝申し上げます。

今回、受賞の対象となった研究は、マツ材線虫病による被害跡地の樹種転換を図るため、砂丘地に人工植栽した広葉樹の成長実態等を明らかにしたものです。海岸林は、防災機能をはじめ多面的な機能を有し、その発揮には森林としての形態を持続的に維持していくことがとても大事であることは周知のとおりです。

しかし、クロマツ一樹種のみ relied 海岸林は病虫害や自然災害に対して脆弱であるとされ、松枯れはその典型ともいえます。このため、将来的には種や構造の多様化によってリスク分散を図り、諸被害に抵抗性のある姿に作り替えていく必要があると考

えます。また、保健休養機能の充実や生物多様性の保全に対するニーズに応えていくためには、クロマツのみの海岸林では限界があることも指摘されています。こうした視点から、本研究ではクロマツ海岸林の中に広葉樹林を造成する技術の確立を目的として取り組んできました。しかし、これまでの研究でわかったことはごくわずかであり、目標の到達点はまだまだ先にあると認識しております。

私は、当学会の前身である海岸林研究会が日本大学工学部において発足して以来、一会員として学会に参加してきました。浅学非才の身にとりまして研究発表や現地検討は大変勉強となっています。こうしたことから今回の受賞は、むしろこれからの研究に期待してのものと受けとめております。今後、これを励みとして努力して参りますので、皆様方からのさらなるご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

リモートセンシング技術を用いた 海岸クロマツ林の植生調査法に関する研究

工藤 勝輝

日本大学生産工学部土木工学科・測量研究室

このたびは大変名誉な賞を頂きまして、心よりお礼申し上げます。愛媛大学農学部江崎次夫学会長、志半ばにお亡くなりになられた山形大学理事・副学長中島勇喜前会長はじめ、学会員の皆様に心より感謝申し上げます。

本受賞は私どもの日本大学生産工学部土木工学科測量研究室での、リモートセンシング技術を用いた海岸林の植生調査に対しての受賞と思われま

す。林分が増えつつあるのが現状のようです。このような現状に対処するには、海岸林の適切な管理のために必要となる生育状態や土壌管理等の定期的な調査が必要となります。しかしながら、線形的に長く分布する海岸林を対象に、地上からの目視や従来からの植生調査法などによってその生育状態を面的に調査するには、現在の労働環境や経費の面からかなり困難な作業となり、調査には経験的に養われた専門的技術が要求されます。

私どもの調査方法は、このような海岸林の生育状態に対する植生調査法として、先端的技術である地球観測衛星および地中レーダーによるリモートセンシング技術を活用したものです。